

(事前C)

## 評価委員会総合評価

研究課題名：B6 南海トラフ沿いのプレート間固着状態監視と津波地震の発生状況即時的把握に関する研究

### 評価委員

委員長：古川信雄

委員：木村富士男、泊次郎、  
小泉尚嗣（書面評価）、渡辺秀文（書面評価）

評価年月日：平成 27 年 7 月 27 日

### 1. 総合評価

- |              |                                       |                                             |
|--------------|---------------------------------------|---------------------------------------------|
| (1) 実施の可否    | <input checked="" type="checkbox"/> 可 | <input type="checkbox"/> 否                  |
| (2) 修正の必要の有無 | <input type="checkbox"/> 修正の必要あり      | <input checked="" type="checkbox"/> 修正の必要なし |

### 2. 総合所見

本研究は、近い将来に発生が確実視されている南海トラフ沿いの大規模地震に特化して、その発生予測と発生後の即時地震像把握をめざしたもので、社会的要望の高い意義深い課題である。また、科学的見地からは、地震発生メカニズムを解明するための重要な基礎的研究と評価できる。大多数の国民は、困難さを承知のうえで、南海トラフに関連する地震と津波の監視、および速やかな情報発信の高度化を強く望んでいる。本研究は、国民の要望に可能な限りこたえようとする計画と判断できる。

副課題 1 について、地殻変動を面的にとらえる研究は、大地震の前兆的变化を検出する可能性を拡大するものであり、成果を期待する。

副課題 2 について、地震動から津波地震を即時に検出することは津波被害軽減のために重要である。また、余震の震源即時決定は、震源域の広がりを把握するための有力な手法の一つであり、本研究による震源精度向上を期待する。

また、以下の点についても念頭に入れて研究を進めてほしい。

現在実施中の他の研究課題（B2「地震活動・地殻変動監視の高度化に関する研究」及び B3「津波の予測手法の高度化に関する研究」）と連携し、得られた成果を積極的に活用しながら進められる体制とする必要がある。

1945 年三河地震は、前年の東南海地震により誘発された地震であったが、被害者数は東南海地震の約 2 倍に上るなど、誘発地震の予測も重要である。容易ではないが、このような誘発地震や余震の予測にも取り組んでほしい。

1605 年慶長地震は、南海トラフの地震ではないという説（石橋(2014)：南海トラフ巨大地震-歴史・科学・社会，岩波書店）がある。こういった考えに対して、説明できる知見を本研究で得られることを期待する。